

兵庫県佐用町におけるセスジダルマガムシ属 2 種の記録

渡辺黎也・大庭伸也

セスジダルマガムシ属 *Ochthebius* (ダルマガムシ科 Hydraenidae) は河川の水面から露出した岩の水際や海岸の岩礁上に生息する小型の水生甲虫であり, 我が国からは 15 種が知られている (中島ほか, 2020). 兵庫県においてはセスジダルマガムシ *Ochthebius inermis*, ホンシュウセスジダルマガムシ *Ochthebius japonicus*, ハセガワダルマガムシ *Ochthebius hasegawai*, ナカネダルマガムシ *Ochthebius nakanei*, ニッポンセスジダルマガムシ *Ochthebius nipponicus* の計 5 種が記録されている (森, 2017; 下野, 2020). このうち, ホンシュウセスジダルマガムシは宍粟市, 神河町, 上郡町, 姫路市, 三田市, 神戸市, 西宮市, 佐用町秋里川と多くの地点で記録されている一方, ハセガワダルマガムシの記録は宍粟市に限られている (森, 2017). 筆者らは両種を佐用町において採集したため, 本県における追加記録としてここに報告する. 種同定には, 吉富ほか (2000) 及び吉富・林 (2019) を参考にした.

1. ホンシュウセスジダルマガムシ *Ochthebius japonicus* Jäch, 1998 (図 1a)

3 exs. + 多数目撃, 兵庫県佐用町大日山川, 27.VI.2020;

2 exs., 兵庫県佐用町秋里川, 28.VI.2020.

2. ハセガワダルマガムシ *Ochthebius hasegawai* Nakane & Matsui, 1986 (図 1b)

2 exs. + 多数目撃, 兵庫県佐用町大日山川, 27.VI.2020.

両種の採集地は林内を流れるやや暗い溪流であり, 水面から露出した岩の水際や岩上の湿った苔の中から得られた (図 1c, d). 大日山川では両種ともに個体数が多く, 多くの岩の表面で複数個体が確認された一方, 秋里川では 1 つの岩からホンシュウセスジダルマガムシ 2 個体が得られたのみであった. 両河川ともに底質は礫や砂利であったが, 秋里川の底質上には薄く泥が堆積しており, 大日山川の方が水質は良好な印象であった.

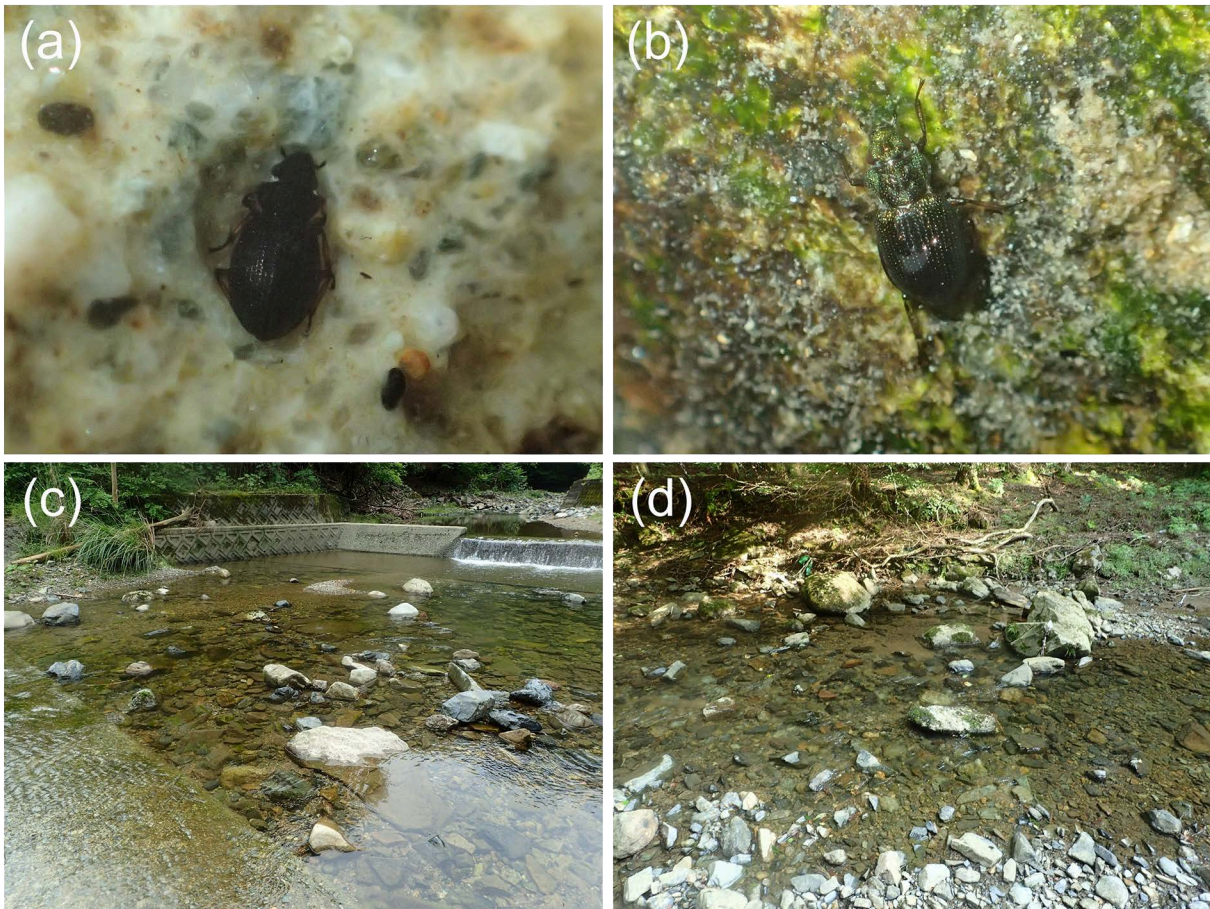


図 1 (a) ホンシュウセスジダルマガムシ; (b) ハセガワダルマガムシおよびそれらの生息環境; (c) 大日山川; (d) 秋里川.

○引用文献

- 森正人, 2017. 兵庫県の水生ガムシ類. きべりはむし, (39): 42-52.
- 中島淳・林成多・石田和男・北野忠・吉富博之, 2020. ネイチャーガイド日本の水生昆虫. 文一総合出版, 351pp.
- 下野誠之, 2020. 南あわじ市からのニッポンセスジダルマガムシとババチビドロムシの記録. きべりはむし, (43): 1-5.
- 吉富博之・松井英司・佐藤光一・疋田直之, 2000. 日本産セスジダルマガムシ属概説. 甲虫ニュース, (130): 5-11.
- 吉富博之・林成多, 2019. 島根県の河川に生息するセスジダルマガムシ属. ホシザキグリーン財団研究報告, (22): 77-83.

(Reiya WATANABE いであ株式会社)

(Shin-ya OHBA 長崎大学人文社会科学域 (教育学系))

兵庫県におけるヨツモンカメノコハムシの記録

篠原 忠・長島聖大

ヨツモンカメノコハムシ *Laccoptera nepalensis* Boheman (図1) はハムシ科カメノコハムシ亜科に属する植食性昆虫である。本種はノアサガオ *Ipomoea indica* やサツマイモ *Ipomoea batatas* などのヒルガオ科を寄主植物とし(木元・滝沢, 1994; 滝沢, 2014), サツマイモの葉を食害する害虫として注目されている(たとえば, 竹内ほか, 2012)。国内では従来沖縄本島以南で確認されていた(木元・滝沢, 1994; 重藤ほか, 2020)が, その後次第に分布を拡大し, 近畿地方では三重県(稲畑・渡辺, 2017), 和歌山県(重藤・嶋本, 2018), 大阪府(重藤ほか, 2020)で記録されている。

筆者らはこれまで記録のなかった兵庫県において, 伊丹市と西宮市で本種を確認しているので報告する。伊丹市では昆陽池に繁茂したノアサガオで多数の発生を確認した。西宮市では上ヶ原五番町のノアサガオおよび上ヶ原六番町のマメアサガオ *Ipomoea lacunosa* で確認した。上ヶ原六番町では同所的に他のヒルガオ科植物も見られ, マメアサガオ以外でも発生している可能性がある。伊丹市と西宮市のいずれにおいても, 幼虫・成虫ともに確認された。

以下に, 兵庫県における本種の採集データを記す。昆陽池では個体数が多くすべてを採集できなかったため, 標本として保管しているものについて記録する。



図1 ヨツモンカメノコハムシ。

[採集記録]

- 伊丹市: 3 exs., 3-VI-2020, 昆陽池; 5 exs., 7-VI-2020, 同地; 5 exs., 11-VII-2020, 同地; 5 exs., 23-VII-2020, 同地; 5 exs., 9-VIII-2020, 同地; 10 exs., 8-IX-2020, 同地, いずれも長島聖大採集。
- 西宮市: 1 ex., 4-IX-2020, 上ヶ原五番町, 篠原忠採集; 4 exs., 4-IX-2020, 同地, 篠原弘採集; 1 ex. (幼虫), 8-IX-2020, 同地, 篠原忠採集; 1 ex. (幼虫), 4-IX-2020, 上ヶ原六番町 篠原忠採集; 3 exs. (うち 2 exs. 幼虫), 8-IX-2020, 同地, 篠原忠採集。

本報告を行うにあたり, 西宮市における寄主植物の同定でお世話になった山城考准教授(徳島大学), 文献についてご教示いただいた末長晴輝氏および採集に協力していただいた第一著者の父の篠原弘に厚く御礼申し上げる。

○引用文献

- 稲畑憲昭・渡辺靖夫, 2017. 紀伊半島からヨツモンカメノコハムシを確認. ひらくら, 61(2): 44-45.
- 木元新作・滝沢春雄, 1994. 日本産ハムシ類 幼虫・成虫 分類図説. 東海大学出版会, 東京. 581 pp.
- 重藤裕彬・嶋本習介, 2018. 和歌山県からのヨツモンカメノコハムシの記録. 月刊むし, (570): 57-58.
- 重藤裕彬・末長晴輝・南雅之・渡部晃平, 2020. ヨツモンカメノコハムシの分布記録および日本国内, 特に琉球列島における分布の現状. ホシザキグリーン財団研究報告, (23): 227-243.
- 竹内浩二・嶋田竜太郎・沼田洋子・沼沢健一・嶋田綾, 2012. [大島特産園芸作物における生産振興技術対策] ヨツモンカメノコハムシの発生と被害状況および防除対策. 東京都農林総合研究センター平成24年度成果情報一覧. <https://www.tokyo-aff.or.jp/uploaded/attachment/6199.pdf> (2020年9月14日アクセス)
- 滝沢春雄, 2014. 日本産ハムシ科生態覚書 (8). 神奈川虫報, (182): 37-46.

(Tadashi SHINOHARA 神戸大学大学院人間発達環境学研究所)  
(Seidai NAGASHIMA 伊丹市昆虫館)